

2年 算数科 学習指導案

日 時 令和3年5月28日 5校時

指導者

場 所 2年教室

1 単元名 「ひき算のしかたを考えよう」

2 本単元の目標

2位数の減法について、2位数の加法をもとに、位ごとに分けて計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

3 本時のねらい (2/9)

既習の2位数の加法や減法の計算の仕方をもとに、繰り下がりのない2位数の減法の計算の仕方を説明することができる。

(本時で願う児童の説明の仕方) $39 - 24$ を例にします。

- ①たし算と同じように考えます。
- ②まず位ごとに分けます。
- ③十の位どうしを計算します。 $30 - 20 = 10$ です。
- ④そして一の位どうしを計算します。 $9 - 4 = 5$ です。
- ⑤10と5を合わせて、答えは15です。

4 研究とのかかわり主張点

研究テーマ 見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

【重点1】 数学的な見方・考え方と数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

【重点2】 数学的に考える児童を見届ける視点を明らかにした指導改善

本時については、重点1において、以下のような手立てを提案する。

【重点1】 考えをつくる場面において、児童の思考の段階に応じた場を教室内に設置する。

児童一人一人の思考はさまざまである。児童の思考の段階においては自分の席に座って考えたり、説明を書いたりするよりも、具体物を用いて思考を行ったり、仲間と共に話し合っただけで考えたりすることが適切である場合がある。

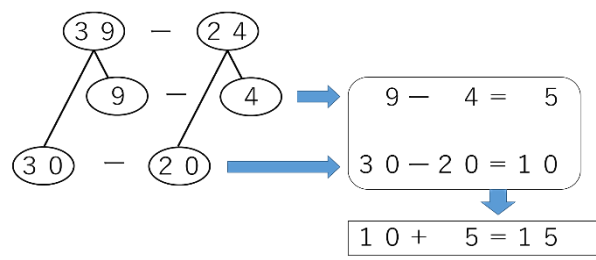
そこで思考の段階に応じて場を分けて活動をするのであれば、思考の段階に応じた数学的活動を行ったり、同じ思考の段階でつまづく児童たちが共に試行錯誤をしながら学びを高めたりすることができると思った。本時においては以下の3つの場を設定した。

(本時における試行段階に応じた場)

- ・ブロック操作ができる場→一人で操作もできるし、仲間と共に操作をすることができる。
- ・自分の席に座ってノートに自分の言葉で説明を書く場→一人でじっくり取り組むことができる。
- ・仲間に自分の考えを説明しあえる場→仲間と共に活動をすることができる。

ブロック操作ができる場は教室の後方にブロック一式を準備しておく。

4 本時の展開 (2/9時間)

段階	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助						
ふりかえり 見える通す	<p>1、前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使い、前時の問題を取り組む。終わった児童には、採点をし、復習プリントを取り組む。 <p>2、問題場면을把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 とおるさんは、シールを39まいもっています。今日、24まいつかいました。シールは何まいのこっていますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・式は$39 - 24$です。「つかいました」と書いてあるのでひき算になります。 ・前は、20を引いたけど、今日は、24になっているところが違います。 ・一の位が0でないところが違います。 <p>3、学習課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 2けたのひきざんの計算の仕方を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている児童を机間指導する。 ・前時の問題の正答状況を見て、特に間違いが多い問題は全体で取り上げる。 ・プリントも個人で答え合わせができるように裏に答えを印刷する。 ・わかっている数量や求残場面である問題文の「つかいました」という言葉と手の動きから、立式をさせる。 ・式が$39 - 24$である理由も全体で確認する。 ・前時との違いに注目させ、課題の見通しを持たせる。 						
考えをもつ ま	<p>4、考えをつくる。</p> <p>(ブロック操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一の位から4ことる 十の位から20とる のこりは、15 <p>(さくらんぼ算で考える。)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(位ごとに分けて引き算をする。)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">10の位を計算すると</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">$30 - 20 = 10$</td> </tr> <tr> <td>1の位を計算すると</td> <td style="text-align: right;">$9 - 4 = 5$</td> </tr> <tr> <td>合わせると</td> <td style="text-align: right;">$10 + 5 = 15$</td> </tr> </table>	10の位を計算すると	$30 - 20 = 10$	1の位を計算すると	$9 - 4 = 5$	合わせると	$10 + 5 = 15$	<p>▲考え作りの場面で止まる</p> <p>⇒教室後方にブロックセットを何セットか準備しておき、ならべて24を引く操作をさせる。</p> <p>▲一のくらいと十のくらいが混同している</p> <p>⇒位の部屋にブロックが入っている図のヒントカードを見られるようにする。</p> <p>▲たし算にしてしまう</p> <p>⇒教室後ろでブロック操作をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの考えも同じ位どうし計算していること、答えが15であることを確かめ、答えとしてノートに記述する。 <p>・説明が苦手な児童に、穴埋めのヒントプリントを配る。</p>
10の位を計算すると	$30 - 20 = 10$							
1の位を計算すると	$9 - 4 = 5$							
合わせると	$10 + 5 = 15$							
め る 確 か に す る	<p>5、考えを交流し、考え方を比べてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一の位、十の位どうし計算しているところは同じ。 ・2けたのたし算のときと同じ考え方だ。 ・答えは、15まいだ。 ・今までのたし算と同じように、位ごとに分けて計算すればよいのではないか。 ・他の問題でも同じように説明ができるかやってみよう。 <p>6、鉛筆問題46 - 15の計算の仕方のせつめいに挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに説明や式を書く。 ・ペアで説明をし、確認する。 <p>7、別の問題を行い、説明を反復練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6では、具体物を使って説明していた児童の机間指導を重視する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><評価規準></p> <p>思考・判断・表現</p> <p>繰り下がりのない2位数の減法の計算の仕方を考え、説明している。</p> <p><評価場面・評価方法></p> <p>机間指導、ノート、発言</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・7は時間があまったときにおこない、プリントを使って練習させる。 						

